

インタビュー特集

岩崎ひと美さん



<岩崎さんの略歴>

CISV ミャンマー会長。1968 年に関西支部からビレッジ派遣。その後もジュニア活動、ビレッジリーダーやスタッフとして活躍。1995 年に家族でミャンマーに移住。2008 年にミャンマーで CISV 活動を決心し、CISV ミャンマーを立ち上げる。

Q：岩崎さんはもともと CISV 活動をなさっていたのですよね？

A：はい。CISV との最初の関わりは 1968 年です。関西支部からフィリピンのビレッジに子どもとして参加しました。その後、ジュニア活動（JB 活動）を経てリーダーを 2 回、ビレッジスタッフやキッチンスタッフをしました。

Q：どういった経緯でミャンマーに行くことになったのですか。

A：夫が国連職員だったので、海外赴任で行きました。ニューヨークやアフリカのコンゴを経て、ミャンマーには 1995 年に赴任しました。夫は当時 UNODC という国連機関で、麻薬の取り締まりと貧困からの自立サポートの仕事をしていました。彼はその後、JICA のプロジェクトや、タイの麻薬コントロールセンターの立ち上げをやり、現在はミャンマーの野球のナショナルチームの総監督をやっています。

Q：国連職員からミャンマーのナショナルチーム総監督ですか？

A：はい。今では「ミャンマー野球界の父」と言われていますが、2000 年当時はミャンマーには野球がなく、野球とは何かというところから指導を始めました。（岩崎家のミャンマーでの活躍は「ミャンマー 裸足の球児たち」（岩崎亨著）で、書籍になっています。）私自身、ミャンマーで野球チームをみる中で、選手に伝えたいことがうまく伝わらないと感じました。その背景の一つは教育ではないか、そう考えて 2004 年にヤンゴン幼児教育開発センターを設立し、幼稚園の先生の養成を始めました。実践教育のための幼稚園を併設し、小学校も現在開設しています。

Q：CISV ミャンマーは、どういった経緯でスタートされたのでしょうか。

A：私が CISV の話を聞いて最初に思ったことは、当時は軍事政権下であり、「人権とか自由とか逆の状態のこの国で、CISV などできるのだろうか。」ということでした。その後軍事政権の移行にあたり、徐々に活動を進めていきました。

CISV を理解するために、夫と野球チームの仲間が、2013 年に IPP プログラムで東北に参加しました。その翌年の 2014 年 12 月には、IPP プログラムをヤンゴンで、CISV 日本と一緒に開催しました。日本人スタッフとミャンマースタッフでホストし、Overcoming boundary というテーマで、135 以上の民族からなるミャンマーについて学ぶプログラムを作りました。私たちの学校（カエイスクール）をパートナーオーガナイゼーション（PO）として、多民族国家ながら民族が違うだけで、結婚ができない等の色々な不自由がある現実を見て考えてもらいました。8 民族の子ども達を呼んで、1 週間デイキャンプなども行い、ミャンマーの最初の CISV プログラムとなりました。

IPP のもう一つの成果は PO のスタッフが「外国人もミャンマー人も違わない。外国人と普通に話をしている。」と思ったことです。ミャンマーの人が社会に対して良いと思ったことを、身近なことからやることができる。そう主体的積極的に希望を持ち、取り組めるきっかけになればと思っています。それを私は CISV Sprit と呼んでいます。

IPP 後、他のプログラムも次々に始め、色々な困難に直面しながらも、少しずつ成長し始めています。現在は、モザイクという国内プログラムを年 2 回行い、2015 年冬に初のデリゲーションを YM に 1 チーム派遣し、2016 年夏には 3 デリゲーションを派遣しました。

私が本当に嬉しいのは、その中で参加者が確実に CISVer として成長していることを見られることです。また現在も日本との共催プログラムを計画中で、今後もミャンマーという国と共に CISV ミャンマーの成長を見届けていきたいと思います。

（CISV ミャンマー集合写真）



日本協会ニュース第 9 号 2016 年 12 月
編集責任者：鈴木 勇貴 | 編集レイアウト：西 恵里奈
発行：公益社団法人 CISV 日本協会 (www.jp.cisv.org)
〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28-218
Tel：03-5261-8560 | Fax：03-5261-8540
Email：japan@cisv.org

日本協会 ニュース 第9号



building global friendship

みんなでお祝いしませんか？

来年は CISV 日本協会 創立 60 周年！



(実行委員会は現役 JB 含め全員パストキャンパーです！)

“式典”では、国内外で活躍している先輩をパネラーに迎えて、“CISV - How it changed my life?”をテーマに、CISV が人生に与える意味についてディスカッションをします。

“祝賀会”は、懐かしい仲間にも再会できるチャンス！過去の支部長・大会委員長・スタッフや参加キッズのリユニオンも企画。縦（世代）と横（支部）の繋がりを再確認できるようなイベントを目指していますので、全国の CISV Lovers の皆さんぜひご参加ください！正式な案内は各支部から一斉発送しますが、今からスケジュールにイベント登録しておいて下さいね。

●日時：2017年10月21日（土）

式典 16:30～17:50

祝賀会 18:00～20:00

●会場：東京グランドホテル 東京都港区芝 2-5-2

●参加費：

大人 6,500 円、学生 4,500 円、小学生以下 3,000 円

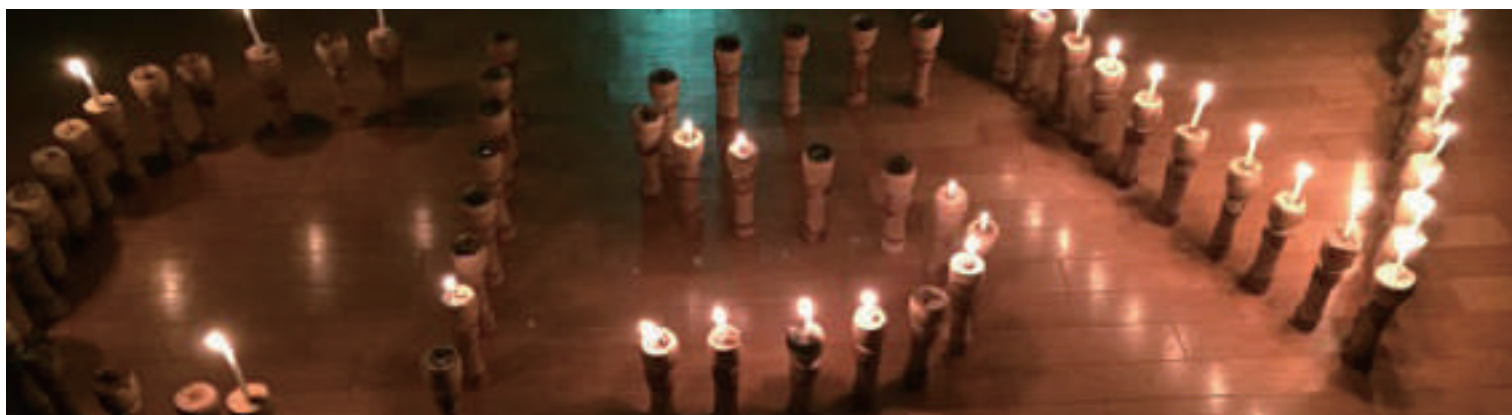
(記念事業ドネーションと交通費コストシェアリングのため関東支部 1950～70年代プログラム参加者は 10,000 円とさせていただきます。)

2016 年度活動報告

2016 年度の活動は会員の皆様のご協力のもと、派遣総数 123 名、受入総数 252 名、APRW & JASPARC の日本での開催やモザイク活動等を含め無事終了しました。新年度になり 10 月 8 日～10 日にかけて代々木オリンピックセンターにおいて JAM が開催されました。

JAM とは年度の始めに 4 支部合同とする会議です。一日目は各部会、懇親会、二日目は全大会、ワークショップ、それと並行してトレーナー研修・個人参加研修・運営委員会も開催します。CISV にとって JAM は年に一度皆さんが顔を合わせていろいろなことを決定したり、共有したり、CISV を楽しんだりととても大事な瞬間になっています。

今年の JAM はゲストスピーカーとして櫻井広行氏に来ていただき、講演を行いました。体験からの貴重なお話を聞き、災害になった時にどう行動すべきか？また、被災地の現状にも少し触れたような気がします。忘れてはならないことだと思います。全大会は、今年は、まるごと CISV を楽しもう をスローガンに「部会・日本大会報告」「ドリス・アレンをご存じですか？」「大人のための CISV」などを開催しました。私自身が楽しんで参加してしまいました。各担当者の熱意の賜物です。本当に準備等ご苦労様でした。来年の JAM もこうした企画をしたいと思しますのでぜひたくさんの方の参加をお待ちしています。そして皆さんで CISV を盛り上げていきましょう！



2016 年度 日本プログラム活動報告

関東ビレッジ

山田エリナ(キャンプスタッフ)



わっしょいビレッジは一生に一度にしか体験であり、2016年の夏は一生忘れない思い出となりました。

キャンプではリーダーたちやキッズたちとの触れ合いを通し、文化の違いを超え、彼らとの信頼関係をどのように築き上げていこうか…と常に考えていました。キッズとリーダーたちの間でも何度も波乱があり、話し合いの場を設けて、彼らがお互いのことをどう思っているのか、どうしていきたくのかというセッションを行ったことがありました。最後のキャンドルナイトの時にみなさんは口を揃えて『わっしょいビレッジは心に残る素晴らしい体験だった』と言っていました。本当に胸いっぱい溢れるほどの喜びで涙が出たことは今でも覚えています。

スタッフは参加者としての立場ではなく運営側としての立場をとっているため、時には厳しくしなければいけないこともあり、参加者全員にとっては納得がいくような決断ができなかったことも多々あったかもしれません。しかし、この経験を通して自分を客観的に見られるいい機会となりましたし、何よりもみなさんの支えがなければこのビレッジを無事に終えることが出来ないのだと改めて感じました。大会委員の皆さま、サポーターの方々、すべての関係者を含め、関東支部の皆さまに御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



関西

深井 瑛子(キャンプディレクター)

ユースミーティング



「仁」。思いやりを持って他人に接すること。今回の関西YMのテーマはこちらでした。参加者の皆はこのテーマをととてもよく理解し、実行してくれました。例をあげればきりがありませんが、遠足の自由行動では迷子や集合時間の遅刻が無かったり、リーダーやスタッフ、関西支部の皆様への感謝の言葉をそれぞれ自主的に述べたりと、たった8日間のキャンプですが、皆その中でそれぞれの成長を見せてくれ、ディレクターをして本当に良かったと、日々感慨深い思いでした。キャンプサイトは山の中でとても自然が多く、快適な場所でした。キャンプサイトの性質上、雨が降るとかなり行動を制限されるので雨だけは懸念事項でしたが、キャンプ期間中は毎日気持ちのいい晴れで、環境にも非常に恵まれたキャンプとなりました。今回の成功要因は、スタッフ・リーダーの団結と、心強い関西支部の方々のサポートでした。キャンプインまで、スタッフは2度しか集まらなかったのですが、毎週日曜日朝6時半からのミーティングのおかげで、最高のチームワークで、今後もずっと絆が続くこと間違いありません。このような素晴らしい仲間を作れて幸せです。そしてこのキャンプに一番尽力くださった関西支部サポーターの皆様のおかげで、参加者はもちろん私たちにとっても最高の夏の思い出になりました。ありがとうございました！



モンゴル IPP

木村 緑 (IPP 部会長)



7月25日より8月8日の日程で、モンゴルと関東支部共催のInternational People's Project(IPP)がモンゴルで開催されました。モンゴルCISVにとっては約20年ぶりのプログラム開催。スタッフはモンゴルと日本でスカイプしながら手探りで準備し、キャンプは首都から560キロ離れたダダル村まで、食料や寝袋、シェフも連れての14時間の大移動で幕を開けました。参加8カ国、スタッフを含め総勢20名は20代から50代までの個性あふれる楽しいメンバーたち。村の学校に宿泊まりしながら、緑の草原で素朴な村の人たちとの交流が始まりました。

IPPの特徴は、現地の人々と参加者が一緒になって現地の課題に取り組むこと。今回は、ダダルの豊かな松林を保護し現地の人に役立てようというもの。倒木を集め、トラックで運び出し、学校のベンチ、六角形の休憩所(ガジーボ)、お土産の木工細工と3つのグループに分かれ作りあげました。村の人たちにとっても初めての取組みは、一緒に汗を流すうちにお互いの距離が一気に縮まり、最後には深いつながりが築かれていました。この成功を支えたモンゴルの関係者の皆様の努力に敬意を表し、日本の皆様のご支援に感謝しています。そして、こんなに深い異文化体験ができるIPPに皆さんも是非参加してみてください。ありがとうございました。



九州モザイク

中島 由香 (九州支部モザイク委員長)



2015年8月9日から16日に福岡県久留米市でユースミーティング(YM)が開催されました。参加国は5カ国、スタッフを含め総勢40名で行いました。

今回のキャンプテーマは「和」でした。「和」という言葉を辞書でひくと、「平和・友情・調和・足すこと・日本」などの意味があり、私たちスタッフが作りあげたいキャンプにふさわしいと思いこのテーマに決めました。私たちが子どもたちに伝えたかったことや感じてほしかったことの全てが全員に伝わったかどうかは分かりません。しかし、子どもたちはきっとそれぞれに何か思ったことがあり、そこから自分なりの答えを見つけていってくれたと思います。こうして振り返ってみると、何度注意しても決してスリッパを履いてくれない子たち、消灯後に違う部屋に移動して汗だくでトイレに隠れていた男の子たち、全てが思い出です。

ビレッジのリーダーしか経験したことのない私は、もっと背伸びをした子どもたちを想像していましたが、彼らはまだ子どもっぽい部分をたくさん持っていて、そんな時期にCISVでキャンプに参加できたことは、彼らにとって素晴らしい経験になったと思います。最後に、全力で取り組んでくれて助けてくれたスタッフ、迷惑をたくさんかけてしまってもずっとサポートしてくださった支部のみなさま。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

